



学校だより

はと広場

4月号

平成31年4月8日
さいたま市立北浦和小学校
TEL 048-831-2463

夢と希望と思いやりをもって 出発

校長 益子 聡

◆ 平成最後の新学期 スタート

3月22日、104名の卒業生が北浦和小学校での学びを終え、中学校へと巣立っていきました。そして、本日、本格的な春の訪れとともに、新一年生133名を迎え、北浦和小学校は全校児童701名でスタートしました。学級数は1学級増え23学級となりました。

〈どんな友だちができるだろう。担任の先生はどんな先生かな。教科書を早く見たいな〉。新学期を迎えた子どもたちは、新しい出会いに心をときめかせていることでしょう。半面〈周りとうまくコミュニケーションをとれるかな〉など、心に何かしらの不安を抱える子どももいることでしょう。「行ってらっしゃい」と、かわいいわが子を学校に送り出すご家族の皆様も、ランドセルを背負う子どもの後ろ姿を見て〈新しい環境に順応できるのかな〉と、心がかりの毎朝ではないでしょうか。

それぞれの期待と不安の交錯する新年度。学校としまして、子どもたち一人ひとりの心、ご家族の皆様の気持ちをしっかりと受け止め、平成31年度の教育活動を丁寧に進めてまいります。

今年度も北浦和小の学校教育目標を〈進んで学び 高め合う 北小の子〉とし、目標の言葉は教室の前面に掲げてあります。体育館前面には「あかるく なかよく すこやかに」の大きな掲示。本校が目指す児童像〈よく考え進んで学ぶ子。心豊かで思いやりのある子。明るく健康でたくましい子〉を、合言葉の形にして掲げているものです。

◆ 21世紀に生きる 北浦和小の子どもたちへ

31年続いた「平成」は今月末で幕を閉じ、5月1日からは新元号「令和」が始まります。西暦では2019年。21世紀のスタートの年に生まれた子は18歳の成人になります。今年本校に入学した1年生は2012・13年生まれ。現在北浦和小に在籍している子どもたちは、21世紀の真ただ中2050年には40歳代。まさに社会の中心となって活躍をしている世代です。

21世紀という言葉で思い出すのは、作家の司馬遼太郎さんが唯一子ども向けに書いた名エッセイ『21世紀に生きる君たちへ』です。小学校国語の教科書向けに書いた短文ですが、司馬さんは21世紀を生きる子どもたちへ、未来への心構えを伝え、希望を導こうと次のような表現をしています。(以下、本文の一部を抜粋しました)

自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。…
このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のもともとは、
いたわりという感情である。…
「いたわり」「他人の痛みを感じること」、「やさしさ」。…
この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をして
それを身につけなければならないのである。その訓練とは…
例えば、友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくり上げていきさえすればよい。…
そういう自己をつくっていけば、21世紀は人類が仲よしで暮らせる時代になるのにちがいない。

新年度が始まった今、歴史の区切りを感じながらも、私たち大人が子どもと向き合う姿勢や自分自身の生き方を省みると、司馬さんが語る、訓練や努力を積み重ねることの大切さは、時代を超えた教訓なのかも知れません。

平成31年、令和元年。北浦和小学校の教育活動に保護者、地域の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。